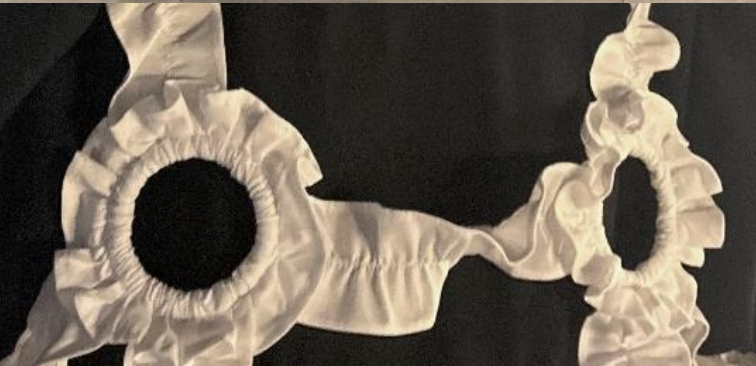




Marionette



Marionette

-操り人形から着想を得たドレスの制作-

1. はじめに

マリオネットとは、人形劇で使われる糸操り人形のことである。また、何者かにより不自由にされている状態を表す比喩表現として使われることもあり、歌詞の中に用いられることも多い。私の好きなアーティストの楽曲の中でも、クリーブハイプの「イト」、BiSHの

「Marionette」では操り人形をモチーフとしている。人形を人間のように見せる人形劇のマリオネットと、人間がより大きな存在に操られることで自分自身では動けない人形のようにしていく詩の中でのマリオネットが、同じ言葉でありながら反対の意味になっていることを興味深く感じた。

人形劇のマリオネットと詩の中のマリオネットはどのような感情を抱いているのかを考え、本制作では、二つの意味を持つマリオネットをファッションデザインという形で表現することを目的とした。

2. テーマとリサーチ

まず、操り人形の重要な要素である「糸」を中心に100語のマインドマップを作成し、連想されたキーワードの中から、「結ぶ」、「縛る」に着目した。

リサーチによって、人間と人形が「結ばれている」と感じられる、リスを撫でるおばあさんのマリオネットと、人形が人間に「縛られている」と感じられる、顔の見えない大きな手に操られるマリオネットを抽出した。これらの画像から、明るく和やかなイメージと暗く不自由なイメージの二面性を持つマリオネットをテーマとして設定した。また、「結ぶ」から連想した明るいイメージからリボン、「縛る」から連想した暗いイメージからハーネスといったデザイン要素を抽出した。

3. デザイン

3-1 デザインコンセプト

設定テーマおよびリサーチ結果を基に、デザインコンセプトを「見えざる手により操られている私たちは幸せなのか不幸なのか」とした。

3-2 イメージボード作成

リサーチで収集した画像や、素材実物をコラージュして、イメージボードを作成した。明るいイメージ、暗いイメージを対比させるように2枚作成した。



図1 イメージボード

3-3 デザイン展開

明るいイメージ、暗いイメージそれぞれ40体ずつ、計80体のデザイン画を作成し、20体選出したものを5色展開、その後20体をコレクションラインとして選出した。その中から本制作するデザインを1体決定し、製品図を作成した。

布地は、デザイン画のドレープ感を再現するためにウールギャバジンを選定した。

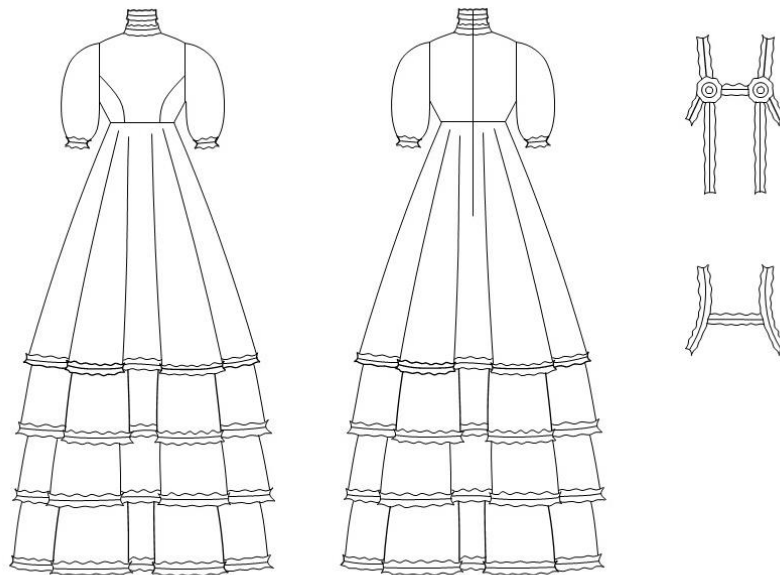


図2 製品図

4. 作品制作

4-1 パターン設計

デザイン画、製品図を基に、立体裁断法と平面製図法を併用してパターン設計を行った。トップス部分は、ゆとりは十分にあるものの、体に沿うデザインになっているため、試着をして補正を行った。スカート部分は4段重ねたデザインになっているが、すべてを全円で設計すると重さや厚みによって縫い目に負担が出ると考え、一番上の段以外は裏地に重なるの部分だけを縫い付けるように設計した。

4-2 本縫い

制作したマスターパターンを用いて、本布の出来上がり線に切りじつけを行い、縫い代をつけて裁断した。生地ハリを持たせるために上身頃と襟の表布の裏には接着芯を貼り、本縫いを行った。袖やスカートの段の部分は、出来上がり線付近に粗ミシンを2本かけ、下糸を引いてギャザーを寄せた。襟、袖、裾、ハーネスのフリルは、綿ブロードを使用してフリルテープを作成した。襟部分は5cm幅、袖、裾、ハーネス部分は6cm幅に裁断し、布端を3mmの三巻に処理した。ギャザー分量が襟部分は1.7倍、袖、裾、ハーネス部分は1.5倍になるように調節したギャザー押さえを使用し、フリルテープとした。最後に、フリルテープとドレスを縫合し、ハーネスを組み立て、アイロンで形を整えて完成とした。

5. おわりに

デザインコンセプトの世界観を作り上げ、それに沿ったパターンや生地を選定など、すべて1から行って衣服を制作することは、想像以上の時間が必要で困難も伴ったが、今まで培ってきた知識を使い試行錯誤することで作品が完成していく過程にやりがいを感じた。イメージした求める世界観が表現でき、自分にしか作れない作品を制作できたように思う。